

事例の種類・名称	事例の種類	事例の名称
	【広域連携】	豊中市柿ノ木配水場の共同化
事業規模等 (豊中市)	給水人口 : 399,022 人 1日最大給水量 : 127,287 m ³ /日 給水面積 : 36.6 km ² 職員数 : 【直営】 147 人【第三者委託】 0 人【委託】 15 人	※数字は、令和5年4月1日時点
事業規模等 (吹田市)	給水人口 : 380,826 人 1日最大給水量 : 124,122 m ³ /日 給水面積 : 36.09 km ² 職員数 : 【直営】 149 人【第三者委託】 0 人【委託】 0 人	※数字は、令和5年4月1日時点
スキーム等	<p style="text-align: center;">【柿ノ木配水場共同化の概要】</p>	<p>① 豊中市の柿ノ木配水場を両市の共同管理とし、水道法第24条の3に基づく第三者委託により、水道の管理に関する技術上の業務を、豊中市が吹田市から受託</p> <p>② 吹田市蓮間配水場からの配水を、豊中市柿ノ木配水場からの配水に変更</p>
経緯	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成26年度 … 柿ノ木配水場の共同化について協議を開始 ○ 令和2年10月 … 「豊中市及び吹田市による豊中市柿ノ木配水場の共同化に関する覚書」締結 ○ 令和2年11月 … 吹田市による管路整備等の工事開始 ○ 令和4年 3月 … 「豊中市及び吹田市による豊中市柿ノ木配水場の共同化に関する協定書」締結 ○ 令和4年 4月 … 第三者委託契約を締結し、吹田市の蓮間高区配水区域への配水を開始 	
広域連携のメリット	水道事業の経営効率化、水道水の安定供給及び災害対応力の確保 【豊中市のメリット】 柿ノ木配水場の余剰能力の有効活用・経費節減(年間約700～800万円) 【吹田市のメリット】 蓮間配水場の機能停止による更新費用の削減(およそ50年間で約16億円)	
広域連携のデメリット	<p>①これまでの課題 …広域連携の手法及び負担金の積算方法の協議に時間を要した。</p> <p>②今後想定される課題 …最終的に箕面市を含む3市共同ポンプ施設の設置を予定していることから、その実現に向け、時期、手法、運営体制、経費等の協議が必要となる。</p>	
業務形態	第三者委託 …豊中市が水道法第24条の3に基づき、水道の管理に関する技術上の業務を吹田市から受託	